

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - ：回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・ 一般的な先行きは依然として不透明感が根強いが、東北新幹線の延伸効果はしばらく続き、観光関連業は上向き傾向となる。
		商店街（代表者）	・ 春物のトレンドカラー・アイテムがはっきりしていることに加えて、3月に駅前通の地下通路が開通することから、客の流れに変化が出てくることが期待される。
		商店街（代表者）	・ 3月末に羽田便で航空会社が新規参入するため、4月にかけて当地及び当商店街を訪れる客の数が増加する。さらに、入学及び新卒時期と相まって売上増加が見込まれる。
		百貨店（販売促進担当）	・ 天候条件さえ安定すれば、景況感は横ばいで推移する。
		スーパー（企画担当）	・ 青果物の価格高を中心に商品単価の低下幅が縮小しており、来客数の減少幅も縮小傾向にあるため、今後についてはやや良くなる。ただし、懸念材料として、今冬の豪雪などの天候リスクが挙げられる。
		コンビニ（エリア担当）	・ 寒くて雪が多いにもかかわらず、来客数が堅調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ 円高やエジプトの動向が気になるが、海外旅行については今後も伸びる要素がある。ただ、国内全体の閉塞感が気がかりである。
		旅行代理店（従業員）	・ 先行受注状況を見ると、国内旅行は2月が前年比128%、3月が前年比96%となっているほか、海外旅行は2月が前年比100%、3月が前年比121%となっており、今後についてやや希望が持てる状況にある。
	通信会社（企画担当）	・ 競合他社に対して十分対抗できるキャンペーン、価格設定、販売戦略を前年以上に用意していることから、今後の販売の伸びが期待できる。	
	住宅販売会社（経営者）	・ 金利や土地、株価に底打ち感があるため、将来的にはやや良くなる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・ 消費税や社会保障の問題など、明るいニュースがなく先行きに希望が持てない状況にあることから、できるだけ消費を抑えて将来に向けて蓄えたいと考えている人が多いため、今後も変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ ここ数か月、一進一退の状況が続いていることから、こうした基調は今後も半年程度は変わらない。
		百貨店（売場主任）	・ 長期予報で、2月は平年と同じくらい寒いということから、冬物の最終処分の数字が見込める。また、3～4月は例年よりも暖かくなるということから、春物のスーツ・ジャケット・コート・ニット関係の動きが期待できる。
		百貨店（売場主任）	・ 寒さのせいで防寒物は好調なものの、衣料品全体としては苦戦しており、食品も前年割れの状況にあることから、今後も厳しいまま変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・ 1月の異常な冷え込みや大雪の影響、灯油の高騰による生活費の圧迫などを受けて、今後については、客が消費に積極的になりきれない。
		スーパー（店長）	・ 来客数の動きをみると、1月に入り若干減少傾向にある。また、社会情勢の不安、鳥インフルエンザや九州の火山活動などのマイナス要因もみられることから、今後については厳しい。
		コンビニ（エリア担当）	・ 来客数の回復が遅れており、たばこ以外の売上の回復もなかなか見込めない。今後についても、たばこのけん引で売上は前年以上を維持できるが、それ以上の回復は望めない。
		家電量販店（店員）	・ 駆け込み需要の反動で、エコポイント対象商品の売上が落ち込んでおり、今後どの時点で回復するか、予想が付かない状況にある。
家電量販店（地区統括部長）		・ 3月の家電エコポイント制度終了までは、需要がほぼ横ばいで推移する。	
乗用車販売店（営業担当）		・ 潮目を変えるような商品計画もなく、地元経済の疲弊もあるため、年度内は現在の状態が続く。期待感を持ちたいが、正直先が見えない状況にある。	
高級レストラン（スタッフ）	・ 客の消費意欲は現状のまま、低下傾向で推移する。		
一般レストラン（スタッフ）	・ 冬の観光時期はある程度期待できるが、4月以降は良くなる要素が見つからない。		
観光型ホテル（経営者）	・ 本州方面の景気が若干改善しているものの、原材料の国際価格が上昇していること、デフレ状況が一向に改善しないことなどから、今後も現状とほぼ変わらない。		

	観光型ホテル（スタッフ）	・北海道内外からの宿泊を誘客するイベント、学会、大会の開催がないことから、今後も大きくは変わらない。不安材料としては恒常的な円高傾向による海外旅行者の増加があるが、一方で、好材料として今春市内に大型観劇施設が開業することから、学校単位での誘致が進む可能性もある。
	旅行代理店（従業員）	・1月後半から来客数は前月並みに戻ってきたが、相談が多く、売上に直結していないことから、今後も変わらないまま推移する。
	タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらない。
	観光名所（役員）	・国内外とも観光入込増につながる材料はすでに出尽くした感があり、当面これといった新しい材料が見当たらないことから、引き続き厳しい局面が続く。
	美容室（経営者）	・明るい先行き感が出てこない現状では当面現状維持の状況が続く。
	設計事務所（所長）	・客の慎重姿勢と低価格志向は相変わらずなことから、今後も変わらない。
やや悪くなる	スーパー（店長）	・通常の売出し目玉価格より更に5円～10円下げただけでも売れ方が極端に違ってきている。客は本当に今必要な物しか買わないし、買う時の価格にますます敏感になってきていることから、今後についてはやや悪くなる。
	スーパー（店長）	・競合店の様子も見て、年明けより状況が悪い。今後も顧客の購買意欲の低下や客単価の低下傾向が続く、売上苦戦の傾向が続く。
	スーパー（役員）	・今月の来客数の減少は、客の購買意欲低下とも判断できる。地方の企業の業績悪化や所得減少の状況下において、しばらくの間は、今以上の上昇は考えられない。
	コンビニ（エリア担当）	・アルコールや雑貨品などの売上が低調であり、たばこを抜いた客単価は前年割れとなっている。必要最低限の商品しか購入しない傾向が顕著であることから、今後についてはやや悪くなる。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・何も対策がないと来客数の減少は防げない状況であるが、確たる対応策もないことから、今後についてはやや悪くなる。
	高級レストラン（スタッフ）	・統一地方選があるため、飲食店においては接待などの出控えがかなり影響する。また、食品の値上がりも始まっており、経費面でも一層圧迫されることになる。
	タクシー運転手	・今月は雪も多く、寒い日が続いていたが、タクシーの売上は伸びてこなかった。タクシーは天候に左右されるため、このような天候の際は売上は伸びるはずであるが、そうでなかったことから、今後の景気はやや悪くなる。
	観光名所（職員）	・国内客・海外客とも、利用者が減少している。今後も円高等の影響が続くことが考えられることから、上半期の利用者の増加は見込めない。
悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・不動産業界ではデフレ傾向が厳しくなっている。じりじりと下がり続ける客の所得に合わせて、デフレも進行していることから、今後については悪くなる。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	食料品製造業（役員）	・2月以降に大型案件が2件ほど予定されているので、今よりは良くなる。
	家具製造業（経営者）	・1月だけの短期間ではあるが、得意先の動きが活発化し、受注が大幅に伸びてきたことから、今後についてはやや良くなる。
	金属製品製造業（役員）	・微増ではあるが、住宅着工件数が前年よりも伸びてきていることから、今後についてはやや良くなる。
	建設業（経営者）	・2～3月にかけて補正予算での公共工事やゼロ国債工事の受注がある程度見込まれる。実際の工事の稼働は4月以降になるが、マインド面で若干明るさが出るのが期待される。建築工事についても官・民ともに動きが出てくることを期待している。
	建設業（従業員）	・雪解け後の着工を予定している高齢者住宅の新築や医療施設の改築の見積りの引き合いが若干増えていることから、今後についてはやや良くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先である鉄骨加工業の仕事は少なく、厳しい状況だが、金属加工業の仕事量が少しずつ増えてきたため、今後の緩やかな回復が見込まれる。
変わらない	輸送業（支店長）	・前年の政策効果の息切れや多少の季節要因から、秋口からの物流には落ち込みがみられ、今月から来月にかけてが最も底となる。ただし、春先以降も極端な回復は望めないため、しばらくは厳しい経営環境が続く。
	司法書士	・現在の経済情勢から判断して、不動産取引や建物の建築が上向くような要因はないため、今後も変わらないまま推移する。

	やや悪くなる	<p>金属製品製造業（経営者）</p> <p>輸送業（営業担当）</p> <p>通信業（営業担当）</p> <p>金融業（企画担当）</p> <p>その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）</p>	<p>・鋼材などが値上がりするため、今後についてはやや悪くなる。</p> <p>・ビート糖、でん粉、いも、玉ねぎ等の農産品の輸送、保管は予想通り激減している。また、船運賃も4月以降、燃料調整金が値上がりしそうなことから、輸送コストの上昇が見込まれる。これらのことから今後についてはやや悪くなる。</p> <p>・第3四半期の後半より商談の引き合い件数の減少が顕著であるため、今後の業績への影響が危惧されることから、今後の身の回りの景況感は現状より更に悪くなる。</p> <p>・住宅着工は分譲マンションの在庫調整が進展し、持ち直しが続く。しかし、個人消費は、雇用・所得環境が厳しいことから低迷が見込まれる。特に家電・乗用車は需要を先食いしていることから、大幅の減少となる。</p> <p>・中国・東南アジアと技術力ではなく、価格で競わなければならないようになっており、今後の価格競争に更に拍車がかかる。</p>
	悪くなる	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共事業削減の影響が4月以降大きく生じてくるため、今後については悪くなる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・北海道においても、いよいよ2012年卒業生向けの就職イベントが本格化する時期を迎えるが、学内における企業説明会に参加する企業数が、ピーク時の200社には届かないものの、前年を1割程度上回っている状況にある。ここ数年、道内においては求人件数が横ばいを維持しているが、求人数が減少傾向にあり、こうした状況下での回復であることから、今後への期待が持てる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業の業績が回復する要因が見当たらない。さらに、消費動向の低迷、労働意欲の低迷、雇用不安、企業経営者のモチベーション低下などから、今後については模様眺めの状態となる。
		人材派遣会社（社員）	・今後の求人数や採用数については、年度変わりのため、人事異動、退職者の補充等で動きは出てくるが、雇用数の増加にはつながらないため、景気回復とは言えず、現状維持の状態が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数の動きに前年比で若干の伸びがみられるものの、以前と比べて、いまだ本格的な回復とは言えず、様子見の状況が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・国の雇用対策の影響で、紹介・派遣業での求人の伸びが見込まれるが、全体的には春頃まで大きく状況が変わることはない。
		職業安定所（職員）	・景気の回復に一服感があるため、雇用についても、しばらくは足踏み状態が続く。
職業安定所（職員）	・新規求人数は前年を上回って推移しているものの、製造業は減少傾向が強く、特に消費の低迷から水産食品等の食品分野での落ち込みが目立つなど、基幹産業の求人が振るわないことから、今後も変わらないまま推移する。		
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	